

# A-72 処理油飼育によるシロネズミの実験的研究 (第1報)

東海学園女短大 田中 徹  
奥村ミサヲ  
○恩田 京子

1. 最近酸敗油の毒性について云々されているが一般家庭での油脂の利用はかなり盲目的な点が多い。我々は家政学的立場より長時間衣揚げ処理を加えた天ぷら油を動物に投与した場合の影響を観察すべく以下の実験を試みた。

2. 実験動物にはウイスター系純系雄シロネズミを用い、6匹ずつ3群(無処理油, 動物性材料にて加熱処理, 植物性材料にて加熱処理を施した油を投与)に分け、同時に油脂大量投与の弊害をみるため、無処理油18%のもの、対照として固型飼料投与のものを飼育した。なお標準飼料は Forker らの方法に従った。かくして60日間飼育の後、肝臓組織標本の作製、総脂質、並びに TBA 値の測定を行なった。

3. (1)処理油投与のものは飼育6週以後体重の減少を示した。また動物性材料処理油投与群では下痢, 脱毛, 鼻血を認めた。(2)肝臓の蓄積脂肪は体重に比して大量投与, 動物性材料処理油投与, 植物性材料処理油投与群の順で多かった。病理所見に於ては動物性材料処理油投与群が最も脂肪蓄積が多かった。(3)肝総脂質量は投与脂肪量の多い群に高かったが, 大量投与と動物性材料処理油投与群では総脂質量が多いにもかかわらず TBA 値の著しい上昇をみななかった。